



デフアスリートを ささえる

競技別手話言語通訳ガイド

[ボウリング編]

Bowling



目次

P.1	目次
P.2	ごあいさつ
P.3	デフリンピックが日本で開催
P.4	スポーツ分野で通訳するための準備
P.5	ろう者とボウリング
P.6～9	ボウリングの基礎知識
P.10～11	ボウリングの用具
P.12	主な大会
P.13～14	デフボウリングの情報保障
P.15	手話言語通訳者について
P.16～22	ボウリング用語の手話表現

ごあいさつ



全日本ろうあ連盟
スポーツ委員会 委員長
太田 陽介

スポーツ庁は「する・みる・ささえる」といった多様なスポーツライフを通じて、スポーツ参画人口の拡大を目指しています。アスリートのプレーを「みる」、ボランティアの「ささえる」活動を通して、「する」スポーツへの興味が喚起され行動へとつながることが期待されており、きこえない、きこえにくい人のスポーツ活動を通じた社会参加と共生社会の実現にも通じる取組になります。

2025年に東京・福島・静岡で開催されるデフリンピック（主催 / 国際ろう者スポーツ委員会 (ICSD)）は、日本では初めての開催であり、また1924年にパリで最初のデフリンピックが開催されてから100周年の節目となる大会になります。

この大会の開催を契機に、手話言語の理解・普及・拡大など従来からの情報保障の推進・強化に加え、スポーツ施設や競技大会において、デジタル技術を活用した、新しいコミュニケーションツール等の開発が進んできています。一方で、きこえないアスリート（デフアスリート）がスポーツをするにあたっては、スポーツ関係者によるきこえないことや手話言語への理解促進とともに、デフアスリートのスポーツ活動をささえる手話言語通訳者の育成が重要になっています。

そこで、本委員会では令和2年度より、スポーツに精通した手話言語通訳者の育成を目的として、スポーツ庁の「障害者スポーツ推進プロジェクト」を受託しており、令和6年度は、専門種目としてテニス競技、柔道競技、バドミントン競技、ボウリング競技、ゴルフ競技、ライフル射撃競技を解説するパンフレットを作成しました。

スポーツ活動の現場で通訳を行う方々の知識と技術の向上にこれらの手引きが役立つことを願っています。

デフリンピックが日本で開催

2025年に東京でデフリンピックが開催

2025年11月15日～26日に東京・福島・静岡でデフリンピックが開催されます。

デフリンピックとは？

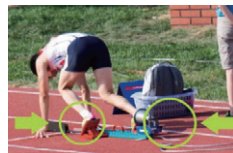
きこえない選手の国際的なスポーツ大会です。
デフ (Deaf) とは、英語で「きこえない」という意味です。

オリンピックと同じように4年に1度、夏季大会と冬季大会が2年ごとに交互に開催されます。競技ルールはオリンピックと同じですが、きこえない選手のための視覚的保障がなされた競技環境があることがデフリンピックの特徴です。

視覚的保障とは？

音や審判の合図がきこえないという、選手にとって不利な状況を視覚的に補うことです。

デフリンピックでは、陸上競技や水泳競技のスターターの音はフラッシュランプを使って選手にスタートを知らせています。サッカーやラグビーでは審判が笛を吹くとともに、旗または片手をあげることで反則などが起きたことを選手に知らせます。



国際的なデフスポーツ大会について

きこえない選手の国際的なスポーツ大会には、デフリンピックの他に、国際ろう者スポーツ委員会 (ICSD) 公認の世界ろう者選手権大会やアジア太平洋ろう者スポーツ連合 (APDSC) 主催のアジア太平洋ろう者競技大会等があります。

URL : ICSD 公式ホームページ <http://www.ciss.org>

デフスポーツに関する情報

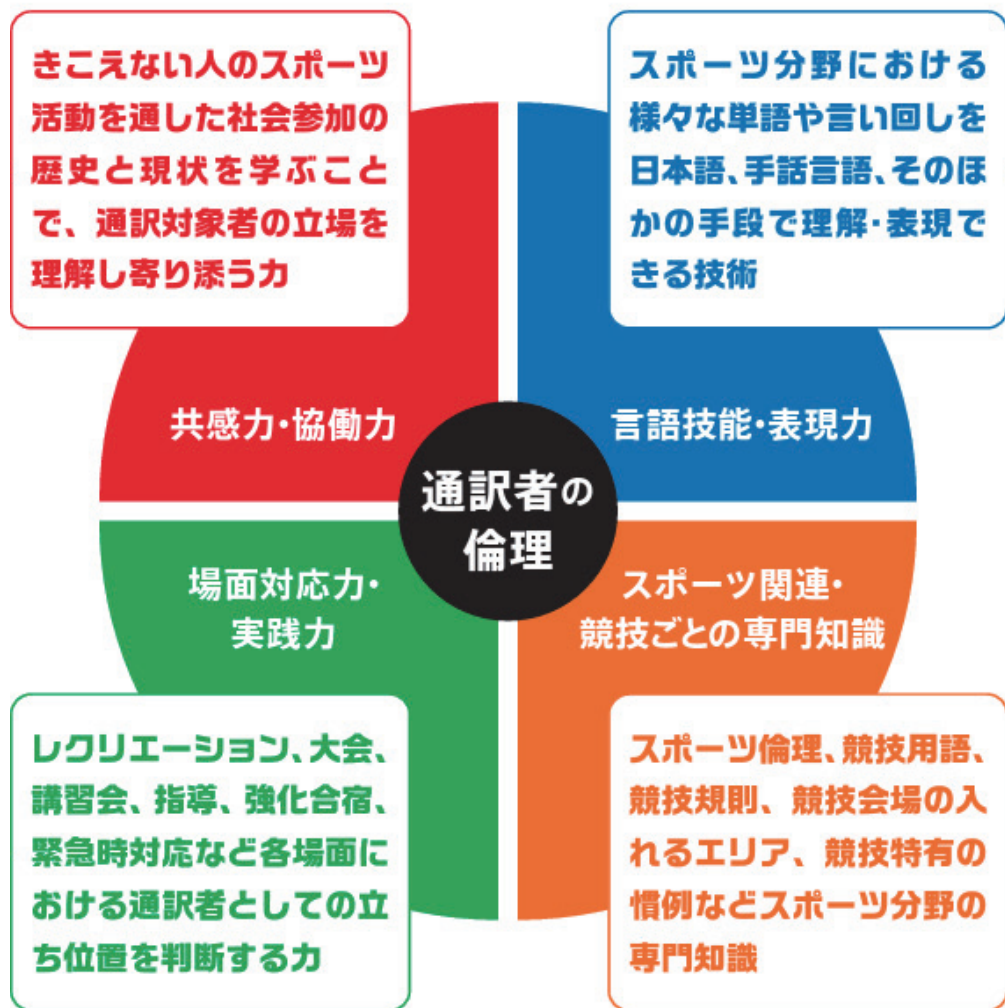
一般財団法人全日本ろうあ連盟スポーツ委員会では、デフスポーツに関する情報発信を行っています。

URL : <https://www.jfd.or.jp/sc/>



スポーツ分野で通訳するための準備

きこえない人のスポーツ活動を通じた社会参加を支える手話言語通訳者が、通訳者としての倫理観を備えた上で準備しておくべき知識と技術を、「共感力・協働力」「言語技能・表現力」「場面对応力、実践力」「スポーツ関連・競技ごとの専門知識」の4テーマに整理しました。



このガイドブックでは特にボウリング競技に必要な知識を紹介します。

ろう者とボウリング

デフボウリングとは

きこえない・きこえにくい人によるボウリングです。

一般のボウリングと競技ルールや試合形式、レーンの規格は同じですが、投球練習開始・終了、試合開始の合図が異なります。

一般的にはアナウンスにて知らせますが、デフボウリングの場合、旗（赤・白）での合図にて知らせます。

近年では、投球練習時モニターに練習の残り時間が表記されるなど、選手にとっても分かりやすくなっています。

この他、競技中は補聴器等を外さなければならないというルールがあります。

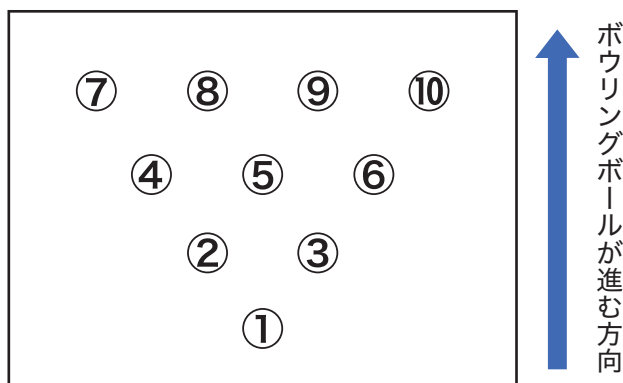
ゲーム進行の妨げとなるため、競技中の選手は、大会役員等関係者を除き、他の選手や応援の方との会話は禁止されています。

コミュニケーションの工夫

コーチからの指示等があった際、選手は手話言語等を使っての会話となるので、ゲーム進行が遅れる場合があります。

デフナショナルチームクラスでは、限られた時間でよりスムーズに選手とやりとりするため、事前に指示事項を決めておき、タブレット等を使用します。

デフボウリングの場合、ピン倒れ等のトラブルに関しては、予め準備しておいたピンスポット（下図参照）を用いることで、審判員に倒れたピン等をスムーズに伝えることができるような工夫をしています。



図：ピンスポット（ピンが配置される位置）

ボウリングの基礎知識

1. ボウリングの歴史

ボウリングは、1840 年代にアメリカで誕生し 1950 年代以降、急速に世界的に普及しました。

日本では1861年6月22日に長崎に日本初のボウリング場が開設されました。これを記念して、1972年、日本ボウリング場協会が6月22日を「ボウリングの日」と決めました。

2. ボウリングとは

レーン上にピンが 10 本、手前に頂点が向く正三角形に並べられ、選手はピンを狙ってボールを転がし、倒したピンの数の合計を競うスポーツです。

その手軽さとルール of 簡明さゆえに、老若男女に馴染みの深いスポーツですが、レーン上に塗られているオイルが投球によって変化するため、それに対応しなければ高得点につながらない、奥深いスポーツです。

選手はアングルの変更、ボールの交換、ボールスピードの調整、回転方向などを調整し、オイルの変化に対応し、高得点を狙います。

3. コーチ / Coach

コーチは1チームに対し1人つけることができ、ボウラーズベンチに入ることができます(事前に試合でのコーチとしての登録が必要)。



4. ルール / Rule

国際大会、国内大会におけるルールは、全て国際ボウリング連盟 (International Bowling Federation) の規則に基づき、公益財団法人 JAPAN BOWLING が制定しています。

ボウリングの種目

シングルス (個人戦)、6人チーム戦などがあります。

・ゲーム、フレーム

1ゲームは10個のフレームで構成されており、通常、シングルスでは選手が6ゲーム、チーム戦ではその試合により1選手あたり3～6ゲームを行います。

選手は、ストライクの場合を除き、1個のフレームにつき2回ずつ投球します。ただし、第10フレームがストライク又はスペアの場合には、サービスフレームとして、ストライクの場合は2回、スペアの場合には1回投球できます。

・ストライク

第1の投球によって、その配置された10本のピンを全部倒した場合をいいます。第10フレームは、1投目ストライクの場合、2投目と3投目を投球できます。

・スペア

第2の投球によってピンの全部を倒した場合をいいます。第10フレームは、2投目でピンを全部倒した場合、3投目を投球できます。

・スプリット

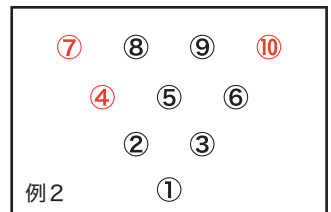
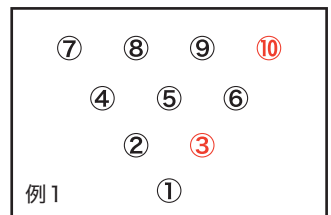
第1の投球によって1番ピン及びその他いくつかのピンが倒れ、2本以上のピンが隣同士に続いている場合をいいます。

例1) 残っているピンの中間のピンが少なくとも1本倒れたとき、例えば7番と9番あるいは3番と10番

例2) 残っているピンの中間が少なくとも1本もしくは2本倒れたとき、例えば4番と7番と10番

・パーフェクト

1フレームから10フレームまで全てストライクを獲得し、1ゲームの最高得点である300点となった場合をいいます。

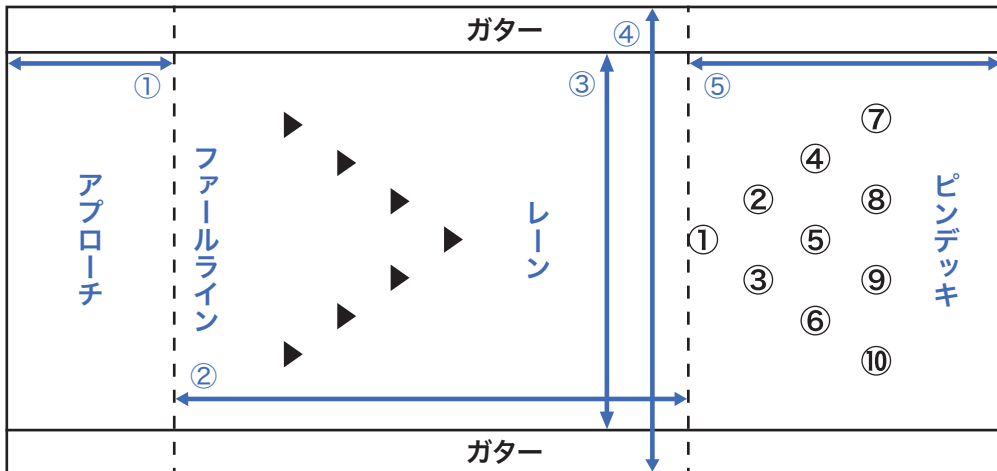


5. 競技エリア(レーン) / Playing Area (Lane)

レーンの長さ及び幅

国内及び国際大会においてレーンの長さ、幅は全て国際ボウリング連盟 (International Bowling Federation) の国際規格に従っています。

ボウリングレーンの名称と規格



アプローチ：ボールを投げるために歩くエリア

①アプローチの長さ：4.572mを最小限

レーン：ピンまでボールを転がすエリア

②ファールラインから1番ピンスポットの中心：18.288m (60フィート)

③レーン幅：1.0414m (41インチ) 以上、1.0668m (42インチ) 以内

④レーンにガターを加えた幅：1.524m (60インチ) 以上、1.530m (60インチ 1/4) 以内

ピンデッキ：レーン奥のピンが立っているエリア

⑤ファイバーストリップの長さ：1.016m以上、1.270m

6. レーンコンディション(オイルパターン)について

レーン上にオイルが塗られており、国際大会ではオイルの長さやオイルの量が異なる2つのオイルパターンで試合が行われます。

例) ショートオイルとロングオイルなど

オイルの種類(粘度)も様々あり、粘度の高いオイルから低いオイルまであります。

オイルの粘度の低いほど、選手にとっては何度もボールを交換したり、投球ラインやボールスピードの調整で対応しなくてはならないため、難易度は高くなります。

試合によっては、粘度の高いオイルと低いオイルを混合して塗られる場合もあります。



7. ボウラーズエリアについて

選手が競技中、自分の投球までに待機するエリアです。

また、ボウラーズベンチに入る際は、たとえコーチや手話言語通訳者であってもボウリングシューズに履き替えなくてはなりません。



ボウリングの用具

1. ボウリングボール / Bowling Bowl

使用ボールは国際ボウリング連盟の公式認定ボールであり、また非金属製で行うことが決まっています。

ボウリングボールの表面・カーバーストックと中玉・コアには様々な種類があり、多種多様の組み合わせによって様々な曲がりを生み出します。

選手は、投球中に全ての指穴に指を入れて投球しなければならず、投球中に指を入れていない穴があった場合、そのゲームの得点は0となります。

試合では、選手は様々な異なる5～6個のボールを刻々と変化するレーンの状況（オイルコンディション）に応じて使い分けます。

・ボールの種類と特徴

ポリエステルボール：曲がりが非常に少ないため、主にスペアボールとして使用。カバーボールとも呼ぶ。

ウレタンボール：曲がりが緩やかで、コントロールしやすいのが特徴。オイルの荒れたコンディションに適している。

リアクティブボール：オイルに対する反応が敏感で、曲がり大きいのも特徴。パール系（曲がり始めが奥の方になる）と、ソリッド系（オイルに対してキャッチ力が強く、曲がり安定している）の2つがある。

・ボールの表面状態

表面の研磨状態によって曲がり方が異なる。

表面を粗くすることで、オイルキャッチが強くなり曲がり緩やかになるが、表面を滑らかにすることで、オイルキャッチが弱くなる反面、オイルがなくなった所から急激に曲がる。

2. ユニフォーム（服装規定） / Uniform

上半身に着用するユニフォームはスポーツに適したものとし、襟・袖ついたものとされ、各大会の競技規定によって定められています。

下半身に着用するユニフォームは、スポーツに適したものとし、スラックス、スカートまたは運動用ショートパンツとされています。

チーム戦においては、競技者はチーム全員同一ユニフォームを着用することとされています。ただし、男女混合のチーム戦では、同一デザインで男女の色違いは同一ユニフォームとみなされています。

3. ボウリングシューズ

選手及び関係者（コーチ以外に手話言語通訳者含む）はボウラーズエリアに入る際やアプローチに上がる際は必ずハウスシューズ等、ボウリングシューズに履き替えなくてはなりません。

右投げの場合、左足はスライドできるよう滑るようになっており、右足は蹴り足のため滑らないようになっています（左投げの場合は逆）。

ハウスシューズは、ボウリング場でレンタルされているシューズのことでレンタルシューズともいいますが、右投げ左投げ関係なく利用できるように、左右とも滑るようになっており、マジックテープ等で履き脱ぎしやすくなっています。

その他、マイシューズとして、選手自身で用意することも可能です。

マイシューズは、紐で結べるようになっており、しっかり固定できます。

また、底に関しては右投げの場合右足がゴム等が貼ってあり、アプローチをしっかり蹴られるようになっています。

スライドの左足は爪先側と踵でパーツが分かれており、パーツを滑るパーツや滑らないパーツに交換することができ、アプローチの状態に合わせて、選手は安定した投球ができるように個々に調整しています（左投げの場合は逆）。



ハウスシューズの例



マイシューズの例

主な大会

国際大会 (2015～2024)

- ・第3回世界ろう者ボウリング選手権大会 2015年8月 イタリア・ボローニャ
- ・第8回アジア太平洋ろう者競技大会 2015年10月 台湾・桃園
- ・第4回世界ろう者ボウリング選手権大会 2019年8月 台湾・桃園
- ・第5回世界ろう者ボウリング選手権大会 2023年8月 ドイツ
- ・第10回アジア太平洋ろう者競技大会 2024年12月 マレーシア



第3回世界ろう者ボウリング選手権大会



第8回アジア太平洋ろう者競技大会



第5回世界ろう者ボウリング選手権大会



第10回アジア太平洋ろう者競技大会



国内大会

- ・全日本デフボウリング選手権 (毎年11月)
- ・全国ろうあ者体育大会ボウリング競技 (毎年9月)
- ・各団体主催の大会 (各ブロックろうあ者体育大会) (毎年5～6月)



全日本デフボウリング選手権



各ブロックろうあ者体育大会

デフボウリングの情報保障

1. 国際大会、国内大会での通訳

場内アナウンスがきこえないため、投球練習開始・終了や試合開始の合図は旗（赤・白）での合図又はモニターにてプレイヤーに伝えています。

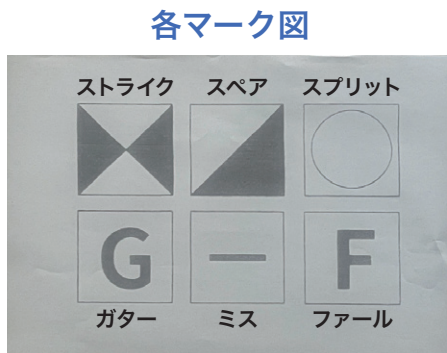
選手およびコーチはできるだけ簡潔でスムーズな会話に心掛け、ゲーム進行の妨げにならないようにしています。

通訳者は、受付、開会式、試合中、表彰式などの場面で通訳を行います。

競技中は、通訳を要する場面は少ないため、ボウラズエリア外後方で待機し、必要に応じて通訳を行います。

手話言語通訳者の配置は、6から10レーンに1名以上が望ましいです。

ピン倒れ等のトラブルに関しては、赤旗を振って審判員を呼び、ピンスポット配置図や各マーク図を利用する（指さしで伝える）ことで、スムーズに審判員に伝えられるよう工夫しています。



2. 強化合宿や研修での通訳

選手とコーチとの会話では練習時や研修時は技術面や戦略を時間をかけて深く話し、チーム全員で理解を深めていきます。

強化合宿の中で試合形式で進める際は本番を想定し、選手とコーチの会話は短く簡潔に心を掛けて指導及び通訳を実施しています。

また、随時、タブレットを使用し図で解析・説明しています。

事前に選手とコーチで短い会話でも意思の疎通ができるようにすることが大切です。

※ ボウリング用語の手話表現が難しい事例

- ・ **ポケット** … 1番ピンと3番ピンの間(右投げの場合)、1番ピンと2番ピンの間(左投げの場合)
- ・ **キャリーダウン** … レーン上のオイルがピン方向に伸びること
- ・ **ブレイクダウン** … レーン上でボールを落とすロフトエリアのオイルが無くなること
- ・ **チルト** … 角度



手話言語通訳者について

1. 通訳者の服装

特に規定はありません。

ただし、ボウリング場はレーン上に塗られているオイルの影響を少なくするために場内の温度が著しく低いことがあり、寒さ対策が必要な場合があります。

開会式や閉会式等ボウリング場のスコアを表記する上部モニターに手話言語通訳者を映し出せる場合は、中央に手話言語通訳者1名でも十分です。

しかし、モニターが使えない場合は、6～10レーンに1名以上の手話言語通訳者の配置となるため、離れた場所からでも手元が見えやすいように、上半身は黒や紺の色の服装が望ましいです。

2. 通訳時のシューズ（ボウリングシューズ）

手話言語通訳者がボウラーズエリアやアプローチに上がる際は、必ず、ハウスシューズなどボウリングシューズに履き替えなくてはなりません。

3. デフボウリング・手話言語通訳者として

専門用語等により通訳が難しい場面では、手話言語のみならず具体的にピンスポット配置図等を利用して通訳することで、選手や審判員に伝わりやすくなります。

ボウリング競技は、特に国際大会では2人チーム、3人チーム、6人チームなどチーム戦がメインであり、競技日程が約10日間、1日10時間にわたり競技が続くなど長丁場のため、体力の維持と十分な休養を取ることが大事です。

また、競技期間中はチームと行動するため、チームが金メダル獲得するなどを達成した瞬間は、手話言語通訳者もチームの仲間一緒に喜びを全員で分かち合えることも、競技スポーツでの通訳の良いところです。

全日本デフボウリング選手権（右側写真）

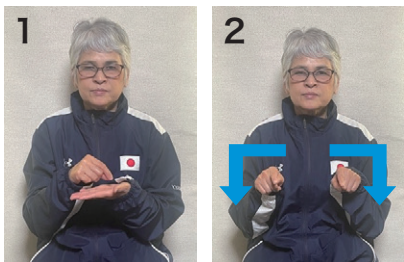
モニターを利用したコーチによる競技説明

各大会での受付の様子（下部写真）

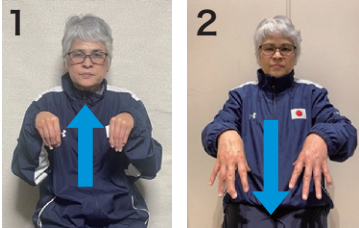
受付をするデフボウリング選手
（左二人：選手、右端：通訳者）

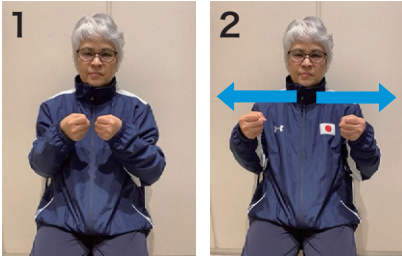


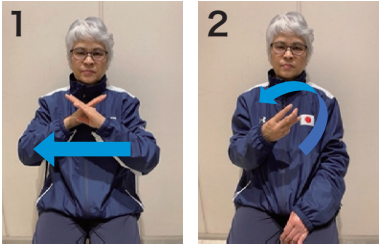
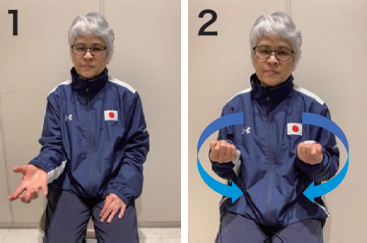
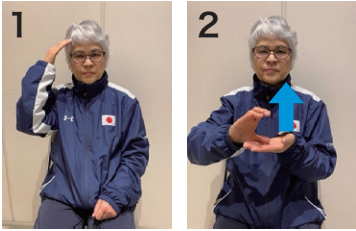
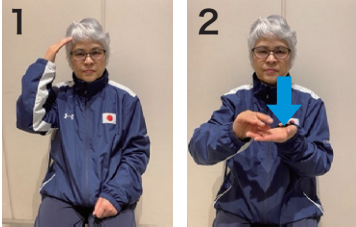
ボウリング用語の手話表現

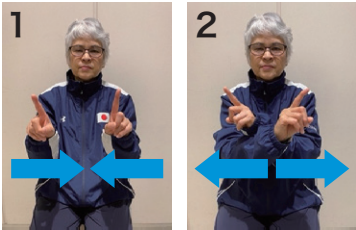
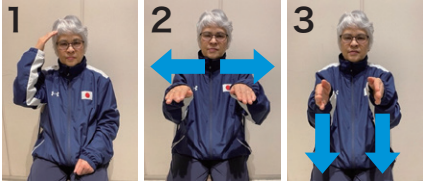
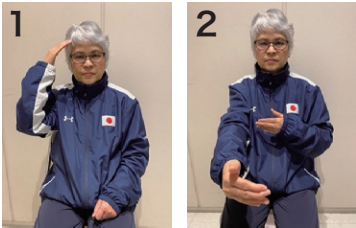
用語と手話表現の方法	手話表現
ボウリング ボールを転がし、ピンを倒す競技のこと。 手話表現の方法 両手の全指をパッと前方へ倒す。	
スタート 試合開始のこと。 手話表現の方法 左掌に右掌を横に立てて、右掌を前方に動かす。	
ゲーム終了 試合終了のこと。 手話表現の方法 開いた両掌をつぼませながら下ろす。	
スコアカード スコアを記入する用紙のこと。 手話表現の方法 ①左掌の上で親指と人差指でペンを形作って右手で書く仕草をする。 ②両手人差指で小さい四角を作る。	

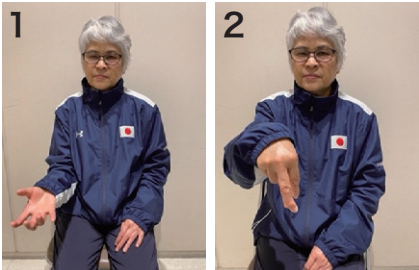
用語と手話表現の方法	手話表現
ロー・ハイ 最低得点と最高得点の差のこと。 手話表現の方法 ①上に向けた左掌に下に向けた右手を下ろす。 ②下に向けた左掌に上に向けた右手を上げる。	
プレーオフ 9F・10F(9・10勝負) 同得点の場合の9フレーム及び10フレーム勝負のこと。 手話表現の方法 ①親指と人差指を2回つまみ押す。 ②親指を立てた両手拳を同時に内側へ倒す。 ③人差指を立てた両手拳を同時に前方へ押し出す。	
ユニフォーム 競技用服装のこと。 手話表現の方法 両手を胸から下へ撫で下ろす。	
ボウラースベンチ 競技中に選手やコーチが座る椅子のこと。 手話表現の方法 ①右拳を左手甲へぶつけるように落とし、すぐに上げる。 ②左人差指・中指を伸ばし、そこへ右手人差指と中指で腰掛ける仕草をする。	
コンコース ボウラースベンチの後方のこと。 手話表現の方法 左手を横に伸ばし、その外側を右手人差指と中指で歩く仕草で往復させる。	

用語と手話表現の方法	手話表現
マシントラブル ピン倒れや脱落等のトラブルのこと。 手話表現の方法 ①両手全指を上げながらつぼめる。 ②両手全指を下ろしながら開く。	1 2 
ファール ファールラインを越えること。 手話表現の方法 右手は数字「2」を表し、左手人差指を重ねる。	
ハイゲーム 最高得点のゲームのこと。 手話表現の方法 下に向けた左掌に、上に向けた右手を上げる。	
ハイシリーズ 3ゲームの合計で最高得点のこと。 手話表現の方法 ①数字「3」を表す左手を下から右手で包み上げる。 ②下に向けた左掌に、上に向けた右手を上げる。	1 2 3 
ストライク 1投目で10本のピンを全て倒すこと。 手話表現の方法 両手を胸元で小さく交差させる。	

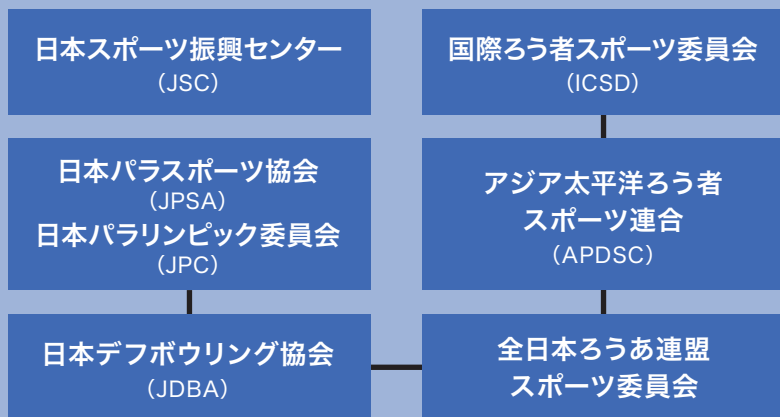
用語と手話表現の方法	手話表現
スぺア 2投目で残りピンを全て倒すこと。 手話表現の方法 右手を右上から斜めに動かす。	
スプリット 残りピンの間隔が1本以上あいている状態のこと。 手話表現の方法 胸の中央につけた両手拳を左右に広げる。	
ガター レーンの左右にある溝のこと。 またはその溝へボールが落ちること。 手話表現の方法 「コ」の字を形作った両手を組み合わせて、「G」の形を作る。	
ミス 2投目でピンを倒せずに残ること。 手話表現の方法 右手人差指で横に短い線を引く。	
ダブル ストライクが2つ続くこと。 手話表現の方法 小さく交差した両手を右へ移動させながら2回交差させる。	

用語と手話表現の方法	手話表現
ターキー ストライクが3つ続くこと。 手話表現の方法 小さく交差した両手を右へ移動させながら3回交差させる。	
パーフェクト (300点) 1ゲーム内で全てストライクをとること。 手話表現の方法 ① 小さく交差させた両手を左から右へ動かす。 ② 数字「300」を表すように表現。	
練習ボール 試合開始直前の投球練習のこと。 手話表現の方法 ① 右手で投げる仕草をする。 ② 両手を軽く握り肩幅に開き、2～3回前後に小さく回す。	
速いレーン オイルが多いレーンのこと。 手話表現の方法 ① 右手で頭部に触れる。 ② 左手を下にして、右手を左手の平におき、厚く作る。	
遅いレーン オイルが少ないレーンのこと。 手話表現の方法 ① 右手で頭部に触れる。 ② 左手を下にして、右手を左手の平におき、薄く作る。	

用語と手話表現の方法	手話表現
レーン ファールラインから、1番ピンスポットの中心までの場所のこと。選手が投げたボールはここを通過してピンが並ぶピンデッキに到達する。 手話表現の方法 両手を肩幅くらいの間隔で前に伸ばす。	
デュアルレーン方式 左右のレーンを1フレーム毎に交互に投球すること。 手話表現の方法 人差し指を立てた両腕を交差させる。	
オイルパターン レーンコンディション (状態) のこと。 手話表現の方法 ①右手で頭部に触れる。 ②両手(掌を下)を体の中心から左右に離しながら段々と上から下へ形を表す。	
ロングオイル オイルが塗られている距離が長いこと。 手話表現の方法 ①右手で頭部に触れる。 ②左手の胸の前におき、右手を前方へ伸ばす。	
ショートオイル オイルが塗られている距離が短いこと。 手話表現の方法 ①右手で頭部に触れる。 ②左手の胸の前におき、右手を体手前まで引く。	

用語と手話表現の方法	手話表現
パウダー 滑り止め等の粉のこと。 手話表現の方法 手の甲を下にし、親指と4指をこすり合わせる。	
アプローチ 選手がボールを投げるために助走を行う場所のこと。 手話表現の方法 ①右手で投げる仕草をする。 ②左掌の上を右手人差指と中指が前方へ歩く。	
スローボウリング 競技進行の遅滞原因が選手にある場合のこと（ルール違反）。 手話表現の方法 右手でボウリングボールを持つ仕草をし、左手親指と人差指を開いて、外側へ山なりに倒す。	
シフト制 3ゲームで1ゲームごとに、A・B両選手のレーンをチェンジすること。 手話表現の方法 ①左人差指と右人差指・親指で「A」を作る。 ②左人差指と右人差指・親指・中指で「B」を作る。 ③右掌は前方へ、左掌は体側へ動かす。	

[組織]



競技団体

公益財団法人 JAPAN BOWLING
<https://www.japan-bowling.or.jp>

一般社団法人デフボウリング協会

一般社団法人日本デフボウリング協会は令和2年2月1日に設立しました。本協会「一般社団法人デフボウリング協会」は「公益財団法人 JAPAN BOWLING」のご支援、ご協力を頂き、デフボウリング競技の普及・デフ選手の発掘・育成活動をしております。また、聴覚障害を持つ全ての人がボウリング競技を通して、障害を克服し強い意志と積極的な人生感を養うことと、障害関係なく誰でも楽しめるボウリングの普及とデフ競技スポーツとしてのデフスポーツボウリングの発展及び競技力向上を目標に活動を行っております。

[参考文献]

公益財団法人 JAPAN BOWLING (ボウリング規程集)
<https://www.japan-bowling.or.jp>

[編集協力]

一般社団法人日本デフボウリング協会
<https://www.jdba.info/>



デフアスリートをささえる

競技別手話言語通訳ガイド [ボウリング編]

発行日 2025年3月1日
発行 一般財団法人全日本ろうあ連盟 スポーツ委員会
TEL : 03-6302-1430
FAX : 03-6302-1449
メール : jfd-sc@jfd.or.jp
URL : <https://www.jfd.or.jp/sc/>



このガイドブックは、令和6年度「障害者スポーツ推進プロジェクト(障害者スポーツの指導・普及等のためのマニュアル等の作成)」の一環で作成しました。

デフスポーツにおける手話言語通訳者の育成等に係る検討委員会・専門部会 委員名簿

国立大学法人筑波技術大学 教授	… 大杉 豊
一般社団法人日本手話通訳士協会広報委員	… 立石 聡子
一般社団法人日本デフボウリング協会	… 安田 由紀子
一般社団法人日本デフボウリング協会	… 伊藤 丈
全日本ろうあ連盟スポーツ委員会委員	… 稲葉 智子
全日本ろうあ連盟スポーツ委員会委員	… 森田 英昭
編集担当	… 高野 大輝